

知る人ぞ知る電気の偉人たちシリーズ Vol.1

忘れられた巨人 サミュエル・インサル

電気事業のルーツにみる真のイノベーション

はじめに

一九〇七年、シカゴに一つの電力会社が誕生した。コモンウェルス・エジソン社である。

創立のカギとなる一人の男がいた。彼は、同社を中心に二〇世紀の最重要イノベーションの一つとされる電気の普及に深くかわかり、電気事業のビジネスモデルを確立した。しかし、その後の大恐慌の嵐の中で彼は表舞台を追われ、その名は長く忘れ去られていた。

最近、コモンウェルス・エジソン社はホームページにこの創業者を復活させた。その人物こそは、これから取り上げるサミュエル・インサルである。

サミュエル・インサルは、一八五九年にロンドン南西部の郊外住宅地パットニーの庶民の家に生まれた。十四歳でロンドン市内の事務所の使い走りや速記者として働き始め、トーマス・エジソンのロンドンにおける電話会社の支社長秘書役兼会計係となった。それが機縁となって、一八八一年二十一歳の時に渡米し、エジソンの秘書役になった。そして、創生期の電力事業であるエジソン電灯会社や、電力機器製造業のエジソン・ゼネラル・エレクトリックで大いに経営手腕を発揮した。エジソンの絶大な信頼を勝ち得て、重用されることになる。彼からは終生サミーの愛称で呼ばれた。